





日本書籍考

舊事記

推古天皇時聖德太子

蘇我馬子作之十卷アリ 先神

代ノ事ヲ記シ其次ニ神武天皇ヨリ

三十四代推古天皇ノ時ノ事ニテラ

記セリ

古事記

三卷アリコレモ神代ヨリ

推古天皇ノ時分ニテヲ記セリ大

納言大安萬侶カ作ナリ

日本紀

三十卷アリ吾人親王



初ノ二卷ニ天神七代地神五  
事ヲ記セリ神代ノ卷是ナリ第三ノ  
卷ヨリ以後ニ神武天皇ヨリ持統  
天皇マテ四十一代ノ事ヲ記セリ  
舊事記 古事記 日本紀ヲ三部  
ノ本書ト名ツク其内日本紀尤モ  
古語拾遺 忌部廣成力作ナリ神代  
ノ事ヲ記セリ三部 本書ニ載サル  
事モアリ一卷アルト二卷アルト  
二通アリ

續日本紀 四十卷アリ菅野真道  
藤原繼繩ト二人レテ作之人皇四十  
二代文武天皇ヨリ人皇五十代桓  
武天皇延暦十一年マテノ事ヲ記セリ  
日本後記 四十卷アリ春澄善繩  
作之桓武天皇延暦十一年ヨリ淳  
和天皇マテノ事ヲ記セリ此書中比  
ヨリ七テ世ニ傳ラス  
續日本後紀 二十卷アリ仁明天  
皇一代ノ事ヲ記セリ忠仁公ノ作

書音

文德實錄 十卷アリ、文德天皇一代

ノ事ヲ記セリ、昭宣公ノ作也。

三代實錄 五十卷アリ、清和天皇

陽成天皇光孝天皇三代ノ事ヲ記

セリ、左大臣藤原時平太藏善行兩

人ノ作ナリ

類聚國史 二百卷アリ、菅丞相ノ作

ナリ、日本紀ヨリ三代實錄ニテノ事

ヲ聚テ部類ヲ分テ考ヘ安キヤウニ

シタル言也、中比ヨリ多ク失テ今僅

ニ二十卷アリ、残レリ

扶桑畧記 阿闍梨皇圓カ作也、字

多、天皇ヨリ以後、後朱雀ノ比ニテ代

代ノ事アラクニ記タリ、今多ク亡テ全

部傳ラス

律 二卷アリ、淡海公ノ作也、罪アル

者ノ輕重ヲハカリテ法度ヲ定タル書

ナリ

令 十卷アリ、淡海公ノ作也、禁中并

國國諸役万事ノ程差ヲ定テ下知

國國諸

三

世レムル事ヲ記セリ清原夏野ナ云人  
令ノ註ヲ作ル義解ト号ス直本ト云  
人註ヲ作ル集解ト号ス合テ三十卷  
ハカリアリ

格 禁中代代ノ下知條條其時時ニ  
異同損益アル事ヲ書集タリ  
嵯峨ノ天皇ノ時ノ格ヲ弘仁格ト号ス  
十卷アリ藤原冬嗣作之清和天  
皇ノ時ノ格ヲ八身觀格ト号ス十二  
卷アリ藤原氏宗作之醍醐ノ天皇

ノ時ノ格ヲ八延喜格ト号ス十卷アリ  
藤原時平作之此三代ノ格ヲ集テ一  
部トスルヲ類聚三代格ト名ツケテ  
三十卷アリ今少々残テ全部ツ  
タハラス

延喜式 五十卷アリ延喜帝ノ時  
左大臣藤原忠平作之禁中年中  
儀式百官臨時ノ作法其外國國  
ノ恒式ヲ詳ニ記セリヨリ  
弘仁格貞觀式ナト云モアレ延喜

式尤モ詳也右律令格式ハ政務ノ為  
肝要ノ書物ナリ令格式ニ背<sup>ソク</sup>モノハ律  
ヲ以テ罪<sup>ツミ</sup>ヲタシ法度ニ行<sup>ユク</sup>フ昔ハ明  
法道トテ一流ノ學者家<sup>イヘ</sup>ヲ立テ律  
令格式ヲ讀習ヒ政事ヲ沙汰セリ  
内裏式 藤原冬嗣ノ作ナリ三卷アリ  
禁中ノ儀式ヲアラクト記セリ  
侍中郡要 橘廣相等カ作也藏人  
ノ役ノ事ヲ委ク記タリ  
風土記 六十餘卷アリ日本六十

六ヶ國ノ事ヲ記セリ諸國ノ山川寺  
社名所舊跡年貢<sup>ネ</sup>土産等ノ事ニテ  
詳ニ載タリ淡海公ノ時分ヨリ此書  
ヲ集テ延喜帝ノ時成就セリ近代  
傳<sup>ツ</sup>ラス  
公卿<sup>キミノカミ</sup>補任 五十卷ハカリアリ神武天  
皇ヨリ以來代代大臣攝政開白以下  
宰相<sup>サヘ</sup>三位以上ノ公卿<sup>キミノカミ</sup>ニ日<sup>ヒ</sup>ホリノ人<sup>ヒト</sup>徒<sup>シ</sup>  
ス書載タリ其人ノ官位ニ昇<sup>ノボ</sup>ル年  
月日ニテ書付タリ天正ノ比迄<sup>マデ</sup>タリ

カニ有之其以後モ書補アリト云々  
任將軍補任ナト云書モアリト聞  
モ今ハ傳ラス

姓氏録

萬多親王ノ作ナリ人々ノ姓

氏ノ起リ記セリ日本ノ氏ノ始凡ニツア  
神ノ子孫ヲ神別ト云中臣忌部藤  
原等ノ類是也神武ヨリ以後代々帝  
王ノ子孫ヲ皇別ト云源氏平氏ノ類  
是也異國ヨリ日本へ渡リタル者ノ子  
孫ヲ蕃別ト云秦氏丹家等ノ類是

也此三種ヨリ子孫兄弟分レテ類多  
ク夕氏ヒロカリハヒコル此次第ノ分レテ此  
書ニ委ク載タリ大部ノ書ト聞ユレト今  
ハ其目錄ハカリ残リタリ

官本諸家系圖

藤原公定著集タリ

西宮記 二十卷ハカリアリ西宮左太

臣高明公作也禁中年中恒例臨時  
ノ作法ヲ記セリ

北山抄

大納言藤原公任ノ作也十卷

餘アリ是モ禁中ノ作法ヲ記セリ

江次第 二十卷餘アリ大江匡房  
ナリ正月ヨリ十二月ニ至マテ禁中  
恒例ノ作法ノ次第ヲ詳記セリ其  
外臨時ノ事ヲモ載タリ  
目次記 二百餘卷アリ村上天皇ノ比  
ヨリ根家代々ノ記録トモテ數多取  
集テ一部トスル者ナリ二条殿ノ家  
ノ秘書也  
明月記 六十卷餘アリ藤原定家  
ノ日記ナリ

山槐記 中山内大臣忠親ノ日記ナリ  
禁秘抄 順德院ノ御作也禁中ノ故  
實ヲ記セリ一卷アリ  
公事根源 一条大閤兼良ノ作也禁  
中ノ年中ノ作法ヲアラハトセリ  
神皇正統記 北畠ノ准后親房ノ作  
也一卷アリ日本帝王代々後醍醐天  
皇ノ時ニテノ事ヲカニモアラハト記  
セリ  
藤原 二卷アリ是モ親房ノ作也



位ノ事ヲ記セリ

百寮訓要 二条關白良基ノ作也

官位ノ事ヲアラケト記セリ一卷アリ

御楔記 二条關白良基ノ作也帝三

即位 後河原へ行幸アリテ御楔

作法アリ其事ヲ記セリ一卷アリ又

大掌會ノ事ヲ記セル書一卷アリ同

人ノ作也是ハ即位ノ後ノ大ナル御祭

即位職掌録 宇多天皇即位ノ比ヨリ

以來代代帝王即位ノ時役人ヲ記セ  
ル書ナリ

釋日本紀 日本紀ノ註ナリ諸ハノ註

ヲ集テ一部トス

元元集 十卷餘アリ親房ノ作也神

道ノ事ヲ記セリ

神代纂疏 三卷アリ兼良ノ作也神

代卷ノ註ナリ

名法要集 神道ノ事ヲ記ナリト

ノ家ノ秘書ナリ一卷アリ

諸社記 二十一社ノ事ヲアラノ

リ親房ノ作ナリ一卷アリ

中臣拔 神代ヨリ傳ハル祝詞ナリ

道ノ秘傳ナリ

麗氣記 神書ナリ

寶基本記 神書ナリ

神風和記 神書ナリ

神代口決 神代卷ノ註ナリ忌部

ノ家ノ説ナリ

懷風藻 一卷アリ日本ニテ詩ヲ集タ

ル書物ノ初ナリ大友ノ皇子大津皇子

文武天皇淡海公其外歴々ノ詩ヲ載

タリ

經國集 懷風藻以後ノ詩文集タル書

物ナリ今僅ニ殘テ全部傳ハラス

凌雲集 一卷アリ詩ヲ集タル書物也

文華秀麗 一卷アリ嵯峨天皇御

言天皇其外歴々ノ詩ヲ載タリ

菅家文草 菅丞相ノ作ル詩文トモラ  
文集タリ十卷アリ筑紫へ下向以後作  
レル詩文ヲハ菅家後集ト名ツク  
都氏文集 都良香カ詩文ヲ集タリ  
良香ハ名高キ學者ナリ菅丞相年  
ワカキ時良香ヲ師トセリ  
江吏部集 大江匡衡カ詩文ヲ集タリ  
本朝文粹 藤原明衡カ作ナリ日本  
ニテ歴々ノ詩文ヲ集タリ十四卷アリ  
續本朝文粹 本朝文粹以後ノ詩文ヲ

集タリ十四卷アリ

朝野群載

詩文其外禁中方ノ故實

ヲ記セリ三善ノ為康カ作ナリ三十

卷アリ

和名抄

源順カ作ナリ二十卷アリ

文字トモヲ書集テ類ヲ分チ註ヲ作ル

無題詩

法性寺ノ關白忠通其外ト

人餘リノ詩トモヲ集タリ三卷アリ

朗詠

藤原公任ノ作ナリ唐日本ノ詩

文ノ句ヲ摘テ類ヲ分テ集タリ昔ハ節

ラツケテ歌ヒタリ

新撰朗詠 藤原基俊力作ナリ朗詠ノ外ノ詩文ノ句ヲ集タリ

江談 江家ノ筆ノ作ナリ詩文ノ物語

ヲ集タリ

古事談 種種ノ物語ヲ集タル書也六卷アリ

續古事談 古事談ノ外ノ物語ヲ書集タリコレモ六卷アリ

古今著聞集 橘季茂力作也二十

卷アリ種々ノ昔物語ヲ多書集リ

宇治大納言物語 源隆國ヲ宇治ノ大

納言ト云此人宇治ニ居テ諸人ノ物語ヲ聞テ書集タリ面白事モアリヲ

カレキ事モアリ

今昔物語 是モ種々ノ物語ヲ書集

タリ大部ト小部ト兩通アリ

十訓抄 人ノ訓ニ成ヘキ事十ヶ條

ヲアケテ其品々ニツキテ物語ヲ書

集タリ

東齊隨筆

是モ物語ヲ書アツメタリ

一卷アリ

水鑿

三卷アリ、神武天皇ヨリ仁明

天皇マテ五十四代ノ事ヲアラクト書

載タリ

世継

三卷アリ、人王五十五代文徳天

皇ヨリ六十九代後朱雀院ノ時マテ

ノ事ヲアラクト記シテ其間攝家代々

ノ事ヲモ載タリ此書ノ一名ヲ大鑿

トモ云

榮花物語

赤染右衛門カ作也字多

天皇ヨリ後朱雀院ノ比マテ帝王中

宮攝家ノ事ヲ載タリ御堂開白道長

威勢榮花ノ事ヲ委記セリ四十帖ア

リ

續世継

榮花物語ノ以後ヲ十代分

リアラクト書載タリ二十卷ハカリ

アリ

増鑑 後鳥羽院ヨリ後醍醐ノ時分ニ  
 テアラフク書載タリ其内ニ關東武家  
 ノ事ヲモ少ク記セリ  
 革命 年号改元ノ事ヲ考ヘタル勅文  
 ナリニ善家ノ書ナリ  
 六代勝事記 高倉安徳後鳥羽土御  
 門順徳院後堀川六代ノ事ヲアラフク  
 ト記セリ  
 太子傳曆 聖徳太子一代ノ事ヲ記  
 タル書也ニ卷アリ

拾芥 東山尤府ノ作也六卷アリ種々  
 細カナル事ヲ類ヲ分テ書集タリ  
 璫囊集 僧俗ノ物語ヲ書集タリ十  
 五卷餘アリ  
 篋篋内傳 安倍晴明カ作ナリ右術  
 ノ書也本園ノ中華ノ書也  
 元亨釋書 東福寺ノ僧虎關作也  
 三木卷アリ日本僧ノ傳記ヲ書集リ  
 釋家寔班記 轉寺一卷アリ尊圓ノ作也  
 出家官位ノ事ヲ記セリ

性盡集百弘法一代ノ詩文ヲ書集タリ

南禪寺ノ僧義堂カ日記ナリ

三卷アリ日本前代書集

善隣國寶記東相國寺ノ僧瑞溪カ作

ナリ日本國ト中華并朝鮮ト使者

并ニ書簡往來ノ事ヲ記セリ一卷アリ

陸奥話記後冷泉院ノ時奥羽ノ安

蓋部貞任宗任ヲ源頼義ニ作テ追討セ

テル頼義并其子義家久奥羽退

留シ合戰數度ニ及フ初ハ貞任強ニ

頼義父子僅ニ七騎ニ打ナサレタル事  
アリ其後重テ兵ヲアツメテ終貞任  
ヲ亡シ宗任ヲ生捕其合戰ノ間九年  
アリト云説モアリ又十二年ニ及フト云  
説モアリ此合戰ノ事ヲ記セル物語也  
一卷アリ

後三年合戰草子 是ハ奥州ノ清原武

衡家ヒライ衡ヲ源義家打平タル事ヲ繪

ニ書タル草子ナリ三卷アリ初貞任

宗任カ此ノ時ニ出羽國ノ住人清原武

別上云者頼義ニ從テ軍忠アリ頼義  
義家上洛ノ時武則ニ命メ出羽奥守  
守ラシム頼義卒去ノ後義家陸奥守  
ニテリテ入國ノ時武則カ子武衡家衡  
驕テ下知ニ從ハス義家イカリテ是ヲ  
攻テ三年ノ間出羽奥州ノ内ニテ合戰  
數度ニ及テ武衡家衡ヲ亡ス頼義  
ノ合戰ヲ前九年ト号シ此合戰ノ後三  
年ト申ナラハセリ義家ヲ八幡大郎ト  
号ス源家ノ正嫡ナリ

保元物語

鳥羽院ノ第一ノ御子崇徳  
院ト云鳥羽院位ヲ讓リテ崇徳院即  
位セラル其後鳥羽院寵愛ノ御子近  
衛院ヲ位ニツケテイラセラル崇徳院心  
ナラス位ラスヘリテ新院ト号ス其後近  
衛院早世シ給リ此次ニハ崇徳院ノ御  
子位ニツケ申サレント人皆思フ所ニ鳥  
羽院同心ナクシテ崇徳院ノ弟後白  
河院ヲ位ニツケ給フ崇徳院イカリテ  
ヲサヘテ年月ヲ送ルル鳥羽院崩御ノ後



宗中ト新院ト御所合戦ニ及フ此時  
ノ關白忠通ハ禁中ニ伺候セラレ其弟  
左大臣頼長ハ新院へ被<sub>レ</sub>參平清盛源  
義朝禁中ニ參<sub>レ</sub>清盛力叔父忠正ト  
義朝力叔父為義ハ其子トモヲ引具シ  
新院へ參<sub>レ</sub>其外公家モ武士モ思息ニ  
相介<sub>レ</sub>テ兩方へ參合戦ノ時新院方  
打負テ新院ハ讚岐國へ流サレ頼長ハ  
流矢ニ中テ死ス為義忠正ハ誅セ<sub>レ</sub>此  
物語ヲ記セリニ卷アリ

平治物語 後白河院ノ臣下右衛門督  
藤原信賴ト少納言入道信西ト威勢  
ヲ爭テ不和ナリ信西ハ清盛ト縁者ナ  
リ信賴ハ義朝ト交ラムスフ清盛熊野  
參詣ノ時留守ノ内ニ信賴義朝同心  
シテ信西ヲ打ツ清盛歸京ノ後合戦  
ニ及フ信賴義朝打負テ清盛威ヲ振  
平ヘリ此物語ヲ記セリニ卷アリ  
源平盛衰記 清盛并平家一門鬪  
繁昌ノ事ヲ記シ頼朝并源氏一類發

平家物語 西海ニテ滅下ノ事ニテ委ク  
記セリ四十八卷アリ

平家物語 十二卷アリ盛衰記ノ内  
ヲ擇拔テ大躰ノ聞ユル様ニシタル物語  
ナリ其次第ハ大方盛衰記ト同シ又少  
少相違ノ事モアリ

東鑑 高倉院治承四年源頼朝伊豆  
國ヨリ發リシ事ヨリ書初タリ頼朝  
ノ子頼家其弟實朝其次藤原頼經  
頼嗣宗尊親王ニテ將軍六代ノ間ノ

日記ナリ其内ニ北条時政義時泰時  
時氏經時時頼時宗執権ノ事ヲモ書  
入タリ日本ニテ武家ノ記録ハ東鑑  
ヲ初トス治承四年ヨリ以後八十七年  
ノ記録也五十二卷アリ

兼久記 二卷アリ北条義時執権ノ時  
分後鳥羽院ノ作ヲ背ク事アリ逆  
鱗アリテ義時ヲ亡サントテ官軍ヲ  
アツメ給フ義時カ子泰時ト義時カ孫  
時房兩大將ニテ次子ト卒シ鎌倉ヨリ

書目録

七

上洛シ宇治勢多クミノ官軍ヲ打破リ  
京へ乱入ル泰時カ子時氏院内へ奉後  
鳥羽院ヲ隱岐國へ流御子土御門院  
ヲ阿波國へ順徳院ヲ八佐渡國へ流シ  
奉ル此事ハ東鑑ノ内ニモアレトモ別ニ又  
記シテ兼久記ト号ス

保曆間記 保元ヨリ以來源平ノ合戦  
頼朝以來關東將軍ノ次第北条九  
代ノ間高時ニ至テノ事元弘建武  
ノ乱曆應年中尊氏將軍ニ任スル

テノ事ヲイカニモアラクト記セリニ卷  
アリ

太平記 後醍醐天皇元應元年ヨリ

後光嚴院貞治六年ニテ四十餘年矣

乱ノ事ヲ記セリ四十卷アリ 評判四十  
平記一卷アリ 卷アリ難太

明德記 將軍鹿苑院殿ノ時山名

氏清山名滿幸謀叛ニ内野ニテ合戦

ス山名敗軍討死ス其物語ヲ記セリ  
一卷アリ或分テ三卷ト云ルモアリ

應永記

鹿苑院殿ノ所周防ノ大内介

義弘ヨシノリ和泉イヅミノ堰サカニテ來テ謀叛ノ聞ヘ

アリ鹿苑院殿數多ノ軍兵ヲ堰ヘ遣

レ義弘ヲ攻亡ス其事ヲ記セリ

北山行幸記

鹿苑院殿家督ヲ其

御子勝定院殿ヘツリ給テ北山ヘ

隱居セラル共山左ヘ行幸ヲ催サル其

太記録也

椿葉記

稱光院崩御アリテ御子ナ

レ王代ステニ終ニトス伏見殿ノ御子ヲ

將軍普廣院殿ノハカラヒニテ御位ニツ

ケ給テ禁中相續ス其事ヲ記セリ一

卷アリ

富士御覽記

普廣院殿富士山見物

ニ駿河國ヘ赴カル其事ヲ記セリ一卷

アリ

永享行幸記

普廣院殿御所ヘ行幸

ノ事ヲ記セリ一卷アリ

旅宿問答

旅宿ニテ種々ノ物語

タル事ヲ書集タル書アリイカニモア

サマナル事トモナレ居此内ニ應永ノ比  
録倉ニテ上<sup>文</sup>杖禪秀謀叛ノ事其外  
鎌倉持氏ノ事ナト書載タリ持氏  
ハ尊氏ノ次男基氏ノ曾孫也  
結城戰場 鎌倉持氏ト普廣院殿ト初  
和ニヨリテ持氏ノ管領上杖憲實密  
密ニ普廣院殿へ内通シ京都ノ兵ヲ呼  
タタシ憲實一ツニナリテ持氏ヲ亡ス  
持氏ノ子春王安王逃テ結城城へ籠  
ル結城氏朝是ヲ介抱ス上杖大軍ヲ

以テ結城ヲ責破ル氏朝ヲ死ニ春王  
安王生捕トナル其事ヲ記セリ一卷  
アリ

嘉吉記 嘉吉二年普廣院殿ヲ赤  
松滿祐ヲノレカ館へ申請テ俄ニ殺シ  
奉ル急キ幡川へ逃下ル京都ヨリ山  
名細川以下大軍追下テ滿祐ヲ  
責破ル其事ヲ記セリ一卷アリ

長祿記 慈照院殿ノ時畠山政長ト畠  
山義就ト家督ヲ争ヒ合戦ニ及フ政長

本意ヲ遂タリ其事ヲ記セリ一巻有  
應仁記 慈照院殿ノ時細川勝元ト山  
名宗全ト權威ヲ争ヒ京都ニテ合戦  
ス諸大小名ニ分テ兩方ヘツク六七  
年ノ間合戦止時ナシ洛中洛外半  
燒亡ス勝負未決ニ宗全病死ス勝元  
モホトナク死ス其ツキク大小名皆其  
本國ヘ歸テ方々ニテ兵乱絶ル事ナシ  
康富記 中原康富カ日記ナリ應永  
ノ比ヨリ文明ノ比マテ公家武家ノ事

ヲ記セリ大部ノ書ナレトモ今二十卷  
ハカリ残レリ  
文明一統記 一条大閤兼良ノ作ナリ  
應仁乱後文明年中洛中漸靜ル  
時分ニ記セル書ナリ  
親元記 蜷河親元カ日記ナリ文明  
ノ比ノ事ヲ記セリ  
穴大記 萬松院殿ノ時ニ三好筑前  
守長慶カ乱ニヨリテ萬松院殿京ヲ  
落テ近江国穴大ヘ赴キ其所ニテ

去せラル其事ヲ記也カ一巻アリ

光源院記 光源院殿元服ノ事ヲ記

タル書一卷アリ又三好筑前守カ宅

へ渡御ノ記録一卷アリ

甲陽軍鑿 甲刃武田信玄其子勝頼

カ始末ヲ記セリ

甲乱記 一卷アリ甲州勝頼滅亡ノ

事ヲ記セリ甲陽軍鑿ト相違ノ事

モアリ

信長記 信長一代ノ事ヲ記セリ

北条記 小田原ノ北条早雲ヨリ氏

細氏康氏政氏直ノ始末ヲ記セリ

天正記 豊臣大閣秀吉一代ノ事ヲア

ラクト記セリ

大閣記 秀吉ノ事ヲ記セリ天正記ト

タカヒニ詳畧アリ

真之限百一十之六  
一撰抄返入本味時

此一冊依或人之未記焉  
覽之則可知一部之大概耳

向陽林子

寬文七丁未年九月下旬

荒川宗長刊行

此茶時 小田原 大茶時



